

# 主日礼拝

2026年5月31日 10時20分～

司式:

奏楽:

## 「アッパ父よ」

『申命記』は、信仰の中心を示す重要な箇所です。その核心は、神がイスラエルを祝福するという約束を土台にしたものです。まず「聞け、イスラエルよ。私たちの神、主は唯一の主である」と宣言され、唯一の神への信仰が明確に示されます。それに続き、「心をつくし、精神をつくし、力をつくして」、主なる神を愛さなければならないと、生活全体を神に向けて生きる姿勢が求められます。この神の御言葉を自らの心に刻むだけでなく、次世代へ徹底して教育することが命じられます。さらに、信仰を常に意識し、忘れないための具体的な指示も与えられます。このように唯一の神を全存在をかけて愛すること、そしてその信仰を日々の生活のあらゆる瞬間に浸透させ、家庭の中で絶やすことなく未来へと伝えていくことの重要性を説いています。

『ローマの信徒への手紙』では使徒パウロは、キリストを信じる者が肉にではなく、霊によって生きる者とされたことを語ります。ゆえに自分中心の欲望や罪の支配に従うのではないのです。霊によって生きるなら、真の命に生きることができます。さらに神の霊に導かれる人は皆、「神の子」とであると宣言されます。信仰者は神から「子としてくださいる霊」を受けているのです。それで私たちは神を「アッパ、父よ」と親しく呼びかけることができます。「アッパ」は幼子が父を呼ぶ言葉であり、神との深い信頼関係を表しています。聖霊は私たちが神の子であることを証ししてくださいます。私たちは、神の約束を受け継ぐ相続人でもあり、キリストと共に神の国を受け継ぐ「神の子」なのです。だからこそ、苦難を共にする歩みも求められます。ここでパウロは、信仰者の新しい身分と希望を示し、恐れではなく、神との親しい交わりの中に生きる喜びを勧めているのです。

### 《神の招き》

前 奏 詞 『高きにいます神にのみ栄光あれ』 J. G. ヴァルター  
 招 詞 詩編46編11節  
 賛 美 歌 3 5 3

### 《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り  
 聖 書 申命記6章4～9節 (旧約276頁)  
 ローマの信徒への手紙8章12～17節(新約279頁)

子ども説教  
 交読詩編 詩編97編1～12節 (115頁)  
 賛美歌 3 5 2  
 説教 「アッパ、父よ」 八木浩史牧師

祈 禱  
 賛美歌 3 5 4

### 《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条  
 献金 献金当番  
 祈 禱  
 主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

### 《派遣》

頌 栄 2 9  
 祝 福  
 報 告  
 後 奏 『神のなしたもうことは、すべて良し』 A. ヘッセ

礼拝当番: (役員: ) 献金当番:  
 音響: 映像: